

コブニンギョウトビケラ *Larcasia akagiae* Nishimoto et Tanida

【選定理由】

全国的に採集例が少ない。愛知県内では豊川水系上流の寒狭川およびその支流にしか生息せず、希少であると考えられる。

【形態】

雄成虫の前翅長は 5.8～26.2mm、雌は 6.5～6.9mm。前翅は淡黒色で斑紋はない。終齢幼虫の体長は 6.2～6.9mm、頭部の大部分は濃茶色、頭頂前部は陥没し、中央部には短毛に覆われた一対の瘤状隆起がある。前胸の前縁部は黄色で、前縁近くに濃茶色の横側帯を持つ。中胸は二対のキチン板からなる。腹部 3～7 節の背面と復面に単一気管鰓を持つ。巢の長さは 7.6～8.2mm で、やや粗雑な石粒からなる。末端復面に一片のやや大きい石粒を付ける。



新城市寒狭川, 2000年3月, 西本浩之 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

新城市（旧鳳来町）の寒狭川およびその支流でしか確認されていない。

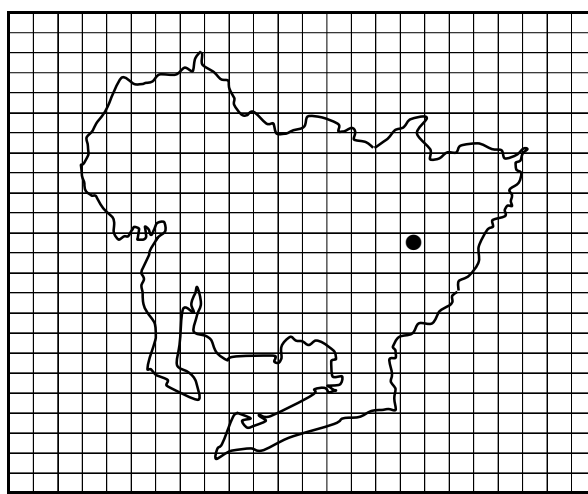
【国内の分布】

愛知、奈良、愛媛の各県で生息が確認されている。

【世界の分布】

日本にのみ分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

山地の溪流や川幅 20～30m の河川にも生息する。年 1 化で成虫は早春（3 月～4 月上旬）の短期間に出現する。成虫は飛翔することが苦手で、代わりに翅をばたつかせて水面をスケートするように移動する。若齢幼虫は安定した大岩の底面の窪みに見られることが多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

豪雨による増水の影響などで 2000 年以降、個体数は減少している。成虫が飛翔できず、今以上の生息地の拡大は見込めないため、現在の生息環境を保全することが重要である。

【保全上の留意点】

若齢幼虫の生活場所から判断して、シルトや細土の流入は本種の生息に大きなダメージを与えると考えられる。上流で大規模な工事が行われる場合は、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

*Larcasia* コブニンギョウトビケラ属はスペイン、カシミール、インド（アッサム）、タイにそれぞれ 1 種ずつ、日本にコブニンギョウトビケラと栃木県日光に生息するコガタコブニンギョウトビケラの計 6 種しか知られておらず、非常に小さな属である。

【関連文献】

Nishimoto H., Tanida K., Gall W. K., Minakami N. T., 2003. Discovery of the genus *Larcasia* (Trichoptera, Goeridae) in Japan, with the descriptions of two new species. *Entomological Science* 2 (3): 425-438.

(西本浩之)